

教育支援部だより



NO.8

★つなぎ愛シート(個別の教育支援計画)について★

つなぎ愛シート(個別の教育支援計画)は、乳幼児期から生涯にわたって医療、福祉、教育、労働等の関係機関と支援をつないでいくツールで、教育機関が中心となって作成するものです。

特別支援学級、通級指導教室に在籍する子どもたちだけでなく、通常学級でも気になる子どもたちについても作成をしている学校が増えてきました。年度末である今が、評価の時期です。その評価を基に来年度に向けて、本人・保護者からの思い等を参考にしながら、目標や合理的配慮等を考え、支援をつないでいきます。

時間をかけて作成しても、なかなか活用に課題があるのは、支援学校も同様です。作ったからには、子どもたちが少しでも楽に生活ができる、また配慮をしてもらえるように活用できたら良いですね。



記入する時の確認事項



【きのかわ支援学校】		つなぎ愛シート		在校生用	
【個別の教育支援計画】					
令和〇年度作成					
本人	フリガナ		性別	性別	性別
	氏名	きのかわ 花子	男	生年月日	1日
	住所	橋本市高野口町野島101-3	保護者氏名	太郎	
			緊急連絡先	0736-〇〇-〇〇〇〇	
診断名			交付日	(平成 25年 9月交付)	
			種別	(平成 年 月交付)	
居住地内 小学校名	小学校名	【〇〇小学校】	中学校名		
	1 学校生活への期待や成長への思い(など)				
本人から	楽しい勉強をしたい				
保護者から	集中力を養えるような取組をしてほしい 言葉で伝えることができるようになってほしい				
教員から	自分の気持ちを言葉で伝えることができるようになってほしい				
2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)					
言葉で伝えることが苦手である。 学校は楽しんで登校している。 放課後デイサービスは、週5回利用している。毎日、楽しんで行っている。					
3 支援機関による支援					
在籍校	学校名	きのかわ支援学校			
	学部・学年等	幼・小・中・高	2年	担任名	〇〇〇
相談支援 事業者	事業者名	計画作成担当者: 〇〇〇〇			
医療・福祉 教育・労働 その他	支援機関	橋本市市民病院	担当者: 〇〇	連絡先: 0736-〇〇-〇〇〇〇	
	支援内容	泌尿器科			
医療・福祉 教育・労働 その他	支援機関				
	支援内容				
医療・福祉 教育・労働 その他	支援機関				
	支援内容				
医療・福祉 教育・労働 その他	支援機関				
	支援内容				
医療・福祉 教育・労働 その他	支援機関				
	支援内容				

児童・生徒名: きのかわ 花子		令和〇年度作成	
4 支援の目標	【支援の目標】 ・心理検査や発達検査等の客観的指標も参考にした生活・学習・心身面の実態把握 ・本人・保護者、教師の期待や願いを踏まえ、重点課題を考え、重点課題の改善・克服に向けた支援の目標を検討 ・本人・保護者と合意形成をはかる。		
	学校の指導・支援	家庭の支援(ご家族からの支援)	
	【学校の指導・支援】 支援の目標に対する指導内容や手立てを具体的に考えて入力する。 本人・保護者と確認する。	【家庭の支援】 目標に向けて、家族が可能な支援を保護者から聞きとる。担任も子どもの考えを ↓ 家庭でできること、していること、してほしいこと 保護者に本人と相談してもらう。	
5 合理的配慮の提供	【合理的配慮の観点】「教育内容・方法」については、「個別の指導計画」にその内容を記載し教育活動にあたります。】		
	【合理的配慮】 観点①教育内容 ①-1 教育内容 ①-2 教育方法 ② 支援体制 ②-1 専門性のある指導体制 ②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮 ②-3 災害時等の支援体制の整備 ③ 施設・設備 ③-1 校内環境のバリアフリー化 ③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮 ③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮 ※本人との確認を大切に		
6 支援会議等/心理・発達検査の記録(必要に応じて別様にて作成を行います。)			
7 成長の様子(「4. 支援の目標」を踏まえた記述を行います。)	【成長の様子】 支援の目標に対し、家庭で見られた成長について、日常から連絡ノート等保護者との連絡を通じて、共有しておく。支援の目標に対する学校での成長も含め、本人・保護者と共有し、入力する。		
	次学年を入力する		
8 来年度への引継ぎ(第 学年へ向けて)	【来年度への引継ぎ】 成長の様子を踏まえ、次年度に向けた重点課題や目標、支援の内容について、本人・保護者と共有し、継続する目標や新たな目標等を具体的に入力する。なお、環境の変化に伴い、不安が伴うことも考慮し、目標を考える。		
	なるべく早い時期に保護者が日付記入・チェック。 ※年度末懇談時には、再度記入、チェック		
	上記1~5までの内容について確認済み		
	令和 年 月 日	保護者確認欄 <input type="checkbox"/>	
【年度末】	記載されているすべての内容について		
	令和 年 月 日	年度末に保護者が日付記入・署名	



合理的配慮の提供について



巡回相談等でつなぎ愛シートの中の「5. 合理的配慮の提供」の記入が難しいとよく聞きます。各学校の基礎的環境整備の状態により変わりますが、ユニバーサルデザイン等の配慮がされてもまだ理解が難しく、個に必要な支援が合理的配慮になります。合理的配慮は、ひとりひとり違うものです。実態把握や本人や保護者の願いをもとに、一緒に合意形成していくことが大事だと思います。また、柔軟に見直しをしていくことも必要だと思います。

合理的配慮の提供について大事な視点(一例)を紹介したいと思います。

※ここに書いているものは、一例です。実態に応じて、個々に検討する必要があります。

カテゴリー	状態	考えられる配慮(支援)の一例
学習面	聞く □指示の理解が困難	□視覚的な情報の提示 □ICレコーダー等の機器を使用し確認できる環境 □話し方の工夫(端的にゆっくり、注目をさせてからの指示)
	話す □筋道立てて話すことが困難 □発表が苦手	□「5W1H」の整理ができるシートの活用 □ICレコーダー等の機器を使用し録音する
	読む □音読が苦手 □読解が苦手	□音声教材(読み上げ機能等)の使用 □漢字等にルビをふる、文字の拡大、スリット活用 □視覚的情報を提示する
	書く □書くことが苦手	□個に合わせたワークシート □書く量の調整 □パソコンやタブレットの活用
	計算する □計算が苦手	□問題量の調整 □個に合わせたワークシート □具体物や計算機の活用
行動面・情緒面	□気が散りやすい □記憶することが難しい	□衝立等を使って環境調整 □具体的なスケジュールの提示→見通し(タイムタイマー等の活用) □確認できるツール(九九表・漢字表等) □メモや情報機器等の活用
	□気持ちのコントロールが難しい	□クールダウンができる場所の確保 □気持ちを引き出す関わりや機会の設定(クローズドクエスチョン<選択制の質問>)
	□集団参加が困難	□集団内での役割分担の明確化 □周囲の幼児児童生徒たちへの理解啓発
	□対人関係が困難	□気持ち等の代弁 □社会的な常識の学習(SST等) →通級指導教室の活用
	□感覚過敏・感覚鈍磨	□刺激量の調整 □イヤマフ、椅子や机の消音マット、ゴム手袋(掃除の時)等、刺激を軽減する道具の活用 □天候(暑さ・寒さ・雷等)による体調への配慮 □けが等のチェック

<参照> 文部科学省・インクルシブ教育システム構築支援データベース・山口県教育委員会ホームページ

今年度のセンター的機能について報告

巡回相談、教育相談、体験学習、学校見学、体験入学等様々な機能を、校区内の幼児児童生徒、先生方、保護者の方に活用していただきました。

巡回相談・教育相談は、幼稚園：2園 小学校：12校 中学校：8校 高等学校：1校と一緒に実態把握をし、課題、支援の方法、職員の体制等を考えさせていただきました。

その中で、不登校ぎみの生徒に寄り添い、生徒の得意なことを学習にいかし取り組んでいくことで、登校できる時間や日数が増えてきているという嬉しい報告も聞かせていただきました。

また、医療との連携が必要だということで、主治医とつながり、子供の発達・成長に向け、共に考えるきっかけとなったケースもあります。

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点からいろいろとご不便をおかけしたり、ご配慮いただき感謝します。

来年度も、少しでも子供達の発達や成長と一緒に応援できたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

